

平成22年度高知南国道路外埋蔵文化財発掘調査業務委託

東野土居遺跡

記者発表及び現地説明会資料



軒丸瓦

日時	記者発表	2011年2月18日(金)	10時30分～11時30分
	現地説明会	2011年2月20日(日)	10時30分～12時
場所	香南市野市町土居の東野土居遺跡発掘調査現場		

高知県教育委員会
(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

1. 調査の目的

今回の発掘調査は国土交通省(四国地方整備局土佐国道事務所)が計画している南国安芸道路工事区間内に所在する東野土居遺跡について工事で影響を受ける部分についての事前の発掘調査を実施し、遺跡の内容を記録保存し地域の歴史の復元に役立てようとするものです。

2. 調査対象面積

香南市野市町土居(約13,960㎡)

3. 東野土居遺跡

高知県教育委員会が昭和61年度に実施した遺跡詳細分布調査によって確認された遺跡です。南国安芸道路の建設に伴って高知県教育委員会が平成20・21年度に実施した試掘確認調査で弥生時代から中世にかけての遺構・遺物が確認されています。

4. 調査体制

調査委託者	国土交通省四国地方整備局
調査主体	高知県教育委員会
調査実施機関	(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター

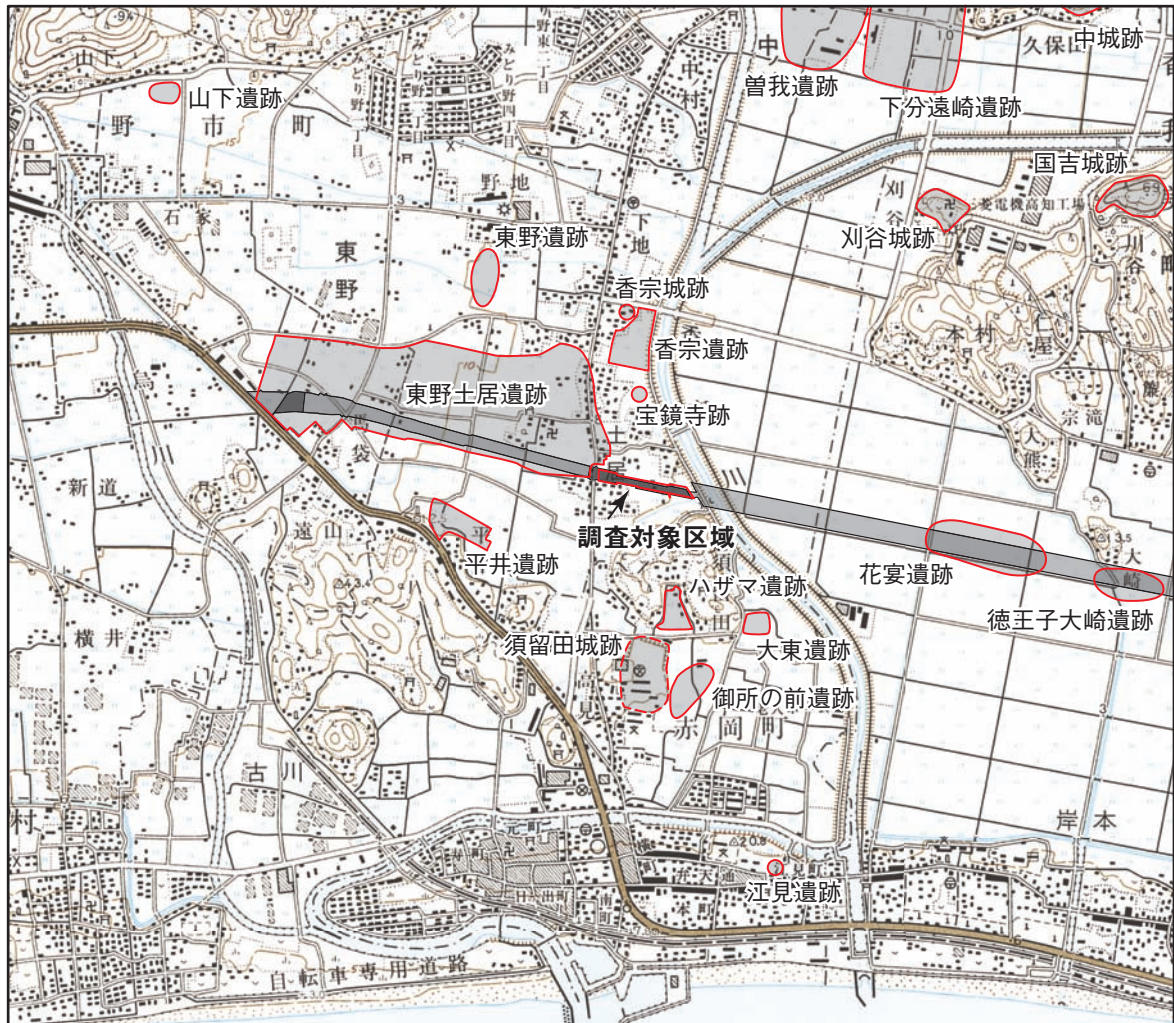


図1 調査区位置図と周辺の遺跡推定範囲(S=1/25,000)

5. 調査期間

平成22年5月6日～平成23年3月9日(予定)

6. 調査結果

(1) 検出遺構

弥生時代～古墳時代: 竪穴建物跡, 土坑, 溝跡, 柱穴など

古代: 掘立柱建物跡, 土坑, 溝跡, 柱穴など

中世: 掘立柱建物跡, 土坑, 溝跡, 柱穴など

近世: 掘立柱建物跡, 土坑, ハンダ土坑, 溝跡など

(2) 出土遺物

弥生土器(甕, 壺, 鉢)・石器, 土師器(甕, 椀, 高杯), 須恵器(杯身, 杯蓋, 甗, 高杯), 鉄鏃, 土師器(皿, 杯, 甕), 須恵器(皿, 杯, 壺, 甕, 円面硯), 瓦, 土師質土器(皿, 杯, 椀), 東播系須恵器, 貿易陶磁器(青磁, 白磁), 国内産陶器(備前焼), 瓦質土器, 近世陶器

7. 調査成果

(1) 弥生時代終末の墓地を確認

前回の説明会では弥生時代終末・古墳時代初頭と古墳時代後期の2つの時期の大きな集落の存在が明らかとなりましたが, 調査を進めるとさらに集落の範囲が広がっていることが分かってきました。竪穴建物跡の総数は80軒を数え, この時期の遺跡としては県下では最も多い数となりました。

今回注目されるものとして, 竪穴建物跡が密集する区域の東側で墓地を発見したことです。やや大きめの壺を棺とした壺棺を5基確認しました。壺棺の大きさからは子供(嬰兒や幼児)の墓と考えられます。これら壺棺には鉢形の土器で蓋をしたものや壺の上胴部に鋸歯文と呼ばれる文様で飾ら



図2 東野土居遺跡検出遺構概略図 弥生・古墳時代(S=1/1000)



I区完掘状態



Ⅲ区完掘状態



ⅣB-③壺棺出土状態



ⅣB-③区 SB1完掘状態

れているものもあります。この時期の子供の墓は住居域のすぐ側に営まれることが多いですが、今回の事例もその一つと言えます。

(2) 古代の建物跡と古代瓦が出土

調査区では掘立柱建物跡、土坑、溝跡、柱穴等の遺構を多数検出しました。掘立柱建物跡は10棟を数え、これら建物跡の中には3間×4間の規模をもつ総柱建物跡も確認しました。東野土居遺跡では最も大きい建物跡で倉庫であったと考えられます。

またこれら建物跡を確認した南側の調査区からは軒丸瓦の瓦当が出土しました。複弁八葉蓮華文の周囲に珠文を配し、外区外縁には鋸歯文を巡らしており、8世紀代のものと考えられます。瓦当は1点のみですが、周辺の遺構からは瓦片が多数出土しており、寺院跡があった可能性が考えられます。また、かつて周辺から礎石が見つかっており、古代寺院の建っていた可能性が語られていましたが、この瓦はそれに具体像をそえるものと思われます。

8.まとめ

今回の調査において、東野土居遺跡は弥生時代後期から古墳時代初頭、古墳時代後期の規模の大きな集落であったことを再確認することができました。そして弥生時代終末期における墓地を確認できたことは集落の様相を考えていく上で貴重な資料となります。また、古代の建物跡などの遺構や古代瓦が出土したことは、官衙関連の建物や周辺に寺院が存在していたことを示唆し、この地が古代においても重要な位置を占めていたことが分かってきました。